

# 30年後が良い未来となつて…

未来社会  
推進機構 未来のムラ創造プロジェクト



小菅・北原の「未来のムラ」に必要な人材募集をPRして

「水を祀る人求む。」「農に生きる人求む。」。持続可能な地域づくりと取り組む(一社)未来社会推進機構(吉越明人代表理事)が今年度、飯山市瑞穂の小菅・北原区と連携して取り組んできた「未来のムラ創造プロジェクト」のほど、両区の目指す未来図や人材募集をPRするチラシを作成し、16日、両区区

長とともに記者会見を行って、これまでの取り組みを発表した。同機構のエリアマネジメント事業として、今の子どもたちが地域の担い手となる30年後を見据えて取り組まれるプロジェクト。急激な人口減や集落の衰退を防止、活発な自治活動の維持を図っていく狙い。プロジェクトでは先ず、

アンケートなど住民の意識調査を通じて、各集落の目指す未来図を作成。未来図の完成に必要な人材像や地域として出来るサポート内容を明確化し、目的に合致する移住者を募集する。移住希望者には事前の面談も行い、双方が安心して生活出来る関係性を築いていく。

初めての試みとなる今年度は、小菅区と北原区と連携してプロジェクトを展開。小菅区では伝統祭事や景観の保全などを念頭に、「水を祀る村」を、新田開発から集落が発展した北原区では農魂を大切に「農に生きる村」をそれぞれ未来図として描く。移住者への支援としては、両区ともに空き家や空き地の紹介、農地斡旋・農家指導などの協力を盛り込むほか、小菅区では歴史・伝統文化の学習機会の提供も盛り込んだ。同機構は地域と移住希望者との間に入り、お互いの希望のすり合わせや、空き家の紹介などを請け負う。ことし6月には両区の空き家所有者への意向調査なども実施しており、現時点ではそれぞれ3軒ほどから移住者との

売買に前向きな回答を得ているという。

16日の記者会見で小菅の小林道男区長は、人口減により、国の重要無形民俗文化財に指定されている「柱松柴燈神事」の継続や、国の重要な文化的景観に指定されている里や小菅山の景観の保全が困難になることへの危機感を語り、「文化財を続けていければいい」と、プロジェクトへの期待を話

した。また、北原の佐藤輝美区長は、地域での新しい農産物の生産・発展への期待も話しながら、「30年後が良い未来となつてくれればいい」と語った。

今後同機構では、ホームページやSNSでPR活動を展開し、移住希望者を募っていく。また、来年度以降は連携する地域を増やし、プロジェクトを拡大していきたい考え。